

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	聖学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	セイガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ2(実習)
	学部・研究科等名	全学部(政治経済学部・人文学部・人間福祉学部)
	担当教職員名・役職	酒井俊行客員教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	34
	受入企業等数	22
	受入企業等名	リゾートトラスト株式会社、汐留パートナーズ株式会社、銀座アスター食品株式会社、日章自動車興業株式会社、トヨタカローラ埼玉株式会社、株式会社マミーマート、大宮アルディージャ、ファインモータースクール、上尾市アッピーランド、ギャップジャパン株式会社、APAMAN株式会社、株式会社大宮電化、ランドガレーズ株式会社、株式会社ベルク、NPO法人AGETTO、望月印刷株式会社、株式会社イエローサブマリン、アルタビスタガーデン、株式会社矢島園、輪倉税理士事務所、等
	インターンシップの分類	9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	民間企業、NPO法人、自治体等を実習先として10日間の就業体験を行うプログラムである。大学では会得できない社会人の働く姿、生き方に触れることで「就業観の育成」の醸成にも反映できるよう実習先には依頼している。1実習先、1学生の受入れを原則としている。受入先には各業務の役割の意味、仕事の中で占める位置も教示していただくよう依頼している。PBL型の場合、複数人で各々役割分担を決め成果物の作成に取り組む。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次～3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		2～3年生の全学部の学生を対象にキャリア教育科目、選択科目として公開されている。インターンシップに参加するためには、インターンシップI(事前学習)の単位取得(2単位)を必要条件としている。夏期・春期休暇中の10日間に企業等に赴き就業体験を積み重ねることで、働くことの意味を会得する。また実際に社員の方達との会話等を通して社会人としてのマナー、コミュニケーションの大切さを学ぶことを目指す。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	春学期・秋学期に夫々インターンシップに参加する前提として15コマの事前学習の講義を開講している。講義を通して、ビジネスマナー、自己理解、業界研究、履歴書の書き方、他者とのコミュニケーションなどを学ぶ機会としている。同時に、間もなく現実となる社会人としての心構えを問い直す時間としている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中には日報の作成、実習終了後にはレポートの提出を課題としている。日報は受入先担当者のコメントをいただき振り返りができる機会を設けている。レポートは当初設けた目標の達成度合いを測る内容となるよう指導しており、レポートを基に口頭コミュニケーション能力を測る発表会をインターンシップ参加者と教員参加の基に実施し評価の一助としている。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中に全ての実習先に対し、担当教員若しくは担当職員が実習先を訪問する。訪問時には、実習の様子の確認及び学生との面談、実習先担当者に学生の様子、実習内容の確認、大学への意見などのヒヤリングを行っている。訪問シートを作成し、情報共有を行い、以降の学びに活かせるよう活用している。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習時に目的・目標を持ってインターンシップに参加することの動機付けを行う。日報・レポートの評価は、目標の進捗度合いを測る内容で評価を行っている。また、実習期間中の訪問時に前後の成長度合いのヒヤリングを行う。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間10日間
要素⑥	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習(15コマ)を単位取得した学生が、夏期及び春期休暇期間中に実施される実習期間10日間のインターンシップに参加する権利を有する。
要素⑦	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの実施に当たっては、事前に企業と実習内容の打ち合わせを行い、理解を得た上で学生を受け入れていただくようにしている。受入先に記入いただいた実施計画書に基づき、インターンシップの趣旨に即しているかどうかを確認、受入先の負担度合いを勘案しながら、実習内容を調整し、プログラムを決定している。
問い合わせ先	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.seigakuin.jp/
	大学等名	聖学院大学
	担当部署名	キャリアサポート部
	担当者役職名	部長
	担当者氏名	吉岡国明
	電話番号	048-725-5441
	メールアドレス	recruit@seigakuin-univ.ac.jp